

III 古代エジプトの医学

古代エジプト人の手になる文字や書物は多くの遺跡から大量に発掘されていたが、ロゼッタ・ストーンが発見されるまでは古代エジプト人の手になる文字は解読不能であった。

ロゼッタ・ストーンは、ナポレオンのエジプト遠征の時、即ち、1799年、ロゼッタ付近で発見された玄武岩の破片で、これにはプトレマイオス5世（紀元前196年）への賛辞がエジプトの象形文字、民用文字、ギリシャ文字の3通りで刻まれている。これが古代エジプト文字解読のきっかけとなった。

長い間、古代エジプト文字の解読ができなかったため、古代エジプトの医療に関する知識は極めて乏しく、わずかにホメロス、ヘロドトス、ヒポクラテス、プリニウス、ディオドロス、クレメンス等のギリシャ、ローマ時代に活躍した人々の著作からうかがうのみであった。しかし、19世紀に7種類の医学パピルスが発見され、これによって古代エジプトの医療が当時としては極めて高い水準に達していたことが明らかとなった。のみならず、その後のギリシャ、ローマの医学に大きく影響を及ぼしたものと考えられる。

1. パピルスの医学

エジプトの歴史を見ると、古代エジプト文明はナイル川流域に発達した壮大な文明で、紀元前3000年頃、南エジプト王国（上エジプト）の支配者であったメネス王が南と北の王国を統一してからその隆盛期を迎えた。この時期の一大発見はエジプトのアルファベッ



写真3



写真4

写真 3 古代エジプトの医神イムホテプ（BC2600頃）：ルーブル美術館（パリ）

写真 4 ロゼッタ・ストーン（BC196頃）。1799年、ナポレオンのエジプト遠征の際、ロゼッタ付近で発掘された玄武岩の破片。象形文字、民用文字、ギリシャ文字で書かれている：大英博物館（ロンドン）